

スタートカリキュラム「どきどき わくわく 1ねんせい」

1 スタートカリキュラムとは

スタートカリキュラムとは、児童が義務教育の始まりにスムーズに対応していけるよう、幼児期の教育から小学校教育へスムーズな移行ができるようにすることを目指したカリキュラム編成の考え方であり、義務教育のスタートが適切に行われることを願った小学校以降のカリキュラムのことである。

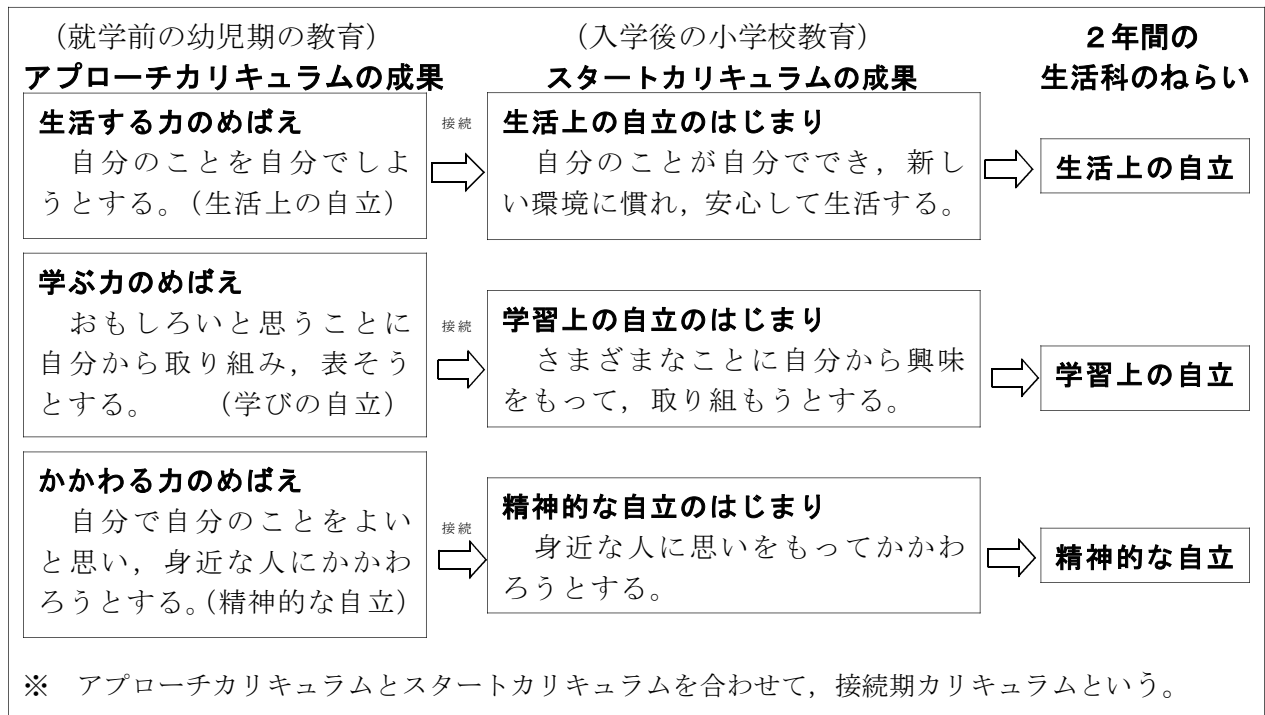
「小学校指導要領 生活編」では、「スタートカリキュラム」という用語が明記されている。幼児期の遊び中心の生活経験を踏まえた、合科的・関連的な学習の導入が低学年に必要であり、その中核を担うのが生活科であると強調された。

2 スタートカリキュラムの編成の意義

遊びを中心とした幼児期の教育と、各教科等の学習を中心とした小学校教育では、教育内容や指導方法は異なる。しかし、子どもの発達や学びは連続しており、幼児期の教育と小学校教育の円満な接続を図ることが大切である。それにより、児童がスムーズに小学校生活をスタートすることができ、「小1プロブレム」の発生を防止することにつながる。

そこで、児童の学校生活への適応を進めるために、小学校入学後の一定期間においては、「明日も学校に来たい」という児童の意欲をかきたてることのできるような幼児期の教育との接続を意識したスタートカリキュラムを編成し、実践していくことが重要である。

具体的には、下の表のように、就学前のアプローチカリキュラムの成果が入学後のスタートカリキュラムに反映され、スタートカリキュラムにおいてもその成果が発揮できるように編成する。



3 スタートカリキュラム「どきどき わくわく 1ねんせい」のねらい

知多地方教育計画案におけるスタートカリキュラムを「どきどき わくわく 1ねんせい」とした。また、そのねらいを次のように定め、編成に当たった。

学校生活に慣れ、安心できるとともに、楽しく学習しようとする意欲を育てる。

- 学校生活の中で、場面に応じた行動の仕方を知り、それらを実際に行ってみたり、できることを続けたりして、楽しく意欲的に学校生活を送れるようにする。また、友達や先生、上級生など、学校生活のさまざまな人とのかかわりを通して、楽しく安心して遊び、学校生活を送れるようにする。(生活上の自立)
- おもしろいと思ったことや興味をもてるものを見つけ、友達と楽しく学習することを通して、これからの学習に自分から関心をもてるようにする。(学習上の自立)
- 1日の学校生活のおよその流れが分かるとともに、学校の施設や人、学習などに興味や関心をもち、楽しく安心して意欲的に学校生活を送れるようにする。(精神的な自立)

4 スタートカリキュラム「どきどき わくわく 1ねんせい」の編成方針

1で述べたことや学習指導要領の内容を基に、スタートカリキュラム「どきどき わくわく 1ねんせい」を次のように編成した。

(1) 合科的・関連的な指導ができる編成とする

児童の発達の特性や各教科等の学習内容により、児童が自らの思いや願いの実現に向けた活動をゆったりとした時間の中で進めていくことができるように、次のような指導ができる編成とした。

- ・合科的な指導…各教科等のねらいをより効果的に実現するための指導方法の一つで、単元または1コマの時間の中で、複数の教科の目標や内容を組み合わせて、学習活動を展開するもの。
- ・関連的な指導…各教科等別に指導するに当たって、各教科等の指導内容の関連を検討し、指導の時期や指導の方法などについて相互の関連を考慮して指導するもの。

特に、当初は、大きな時間の流れで捉えられるようにし、幼稚園や保育所等での時間の流れに接続できるように配慮した。

(2) 生活科を中心とした編成とする

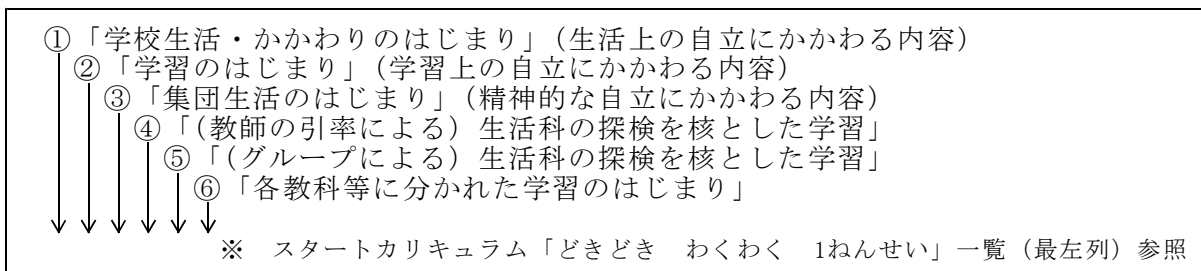
日常生活や学校生活に関連の深い生活科を中心として編成した。

生活科の教科書の口絵P.2～5「がっこうの せいかつ」「はじめまして」、口絵P.6,7「たのしい がくしゅう」、口絵P.8,9「たのしい いちにち」の内容が、それぞれ生活科でねらう「生活上の自立」、「学習上の自立」、「精神的な自立」の内容に当てはまることに着目し、「がっこうの せいかつ・はじめまして」、「たのしい がくしゅう」、「たのしい いちにち」の三つを大単元「どきどき わくわく 1ねんせい」内の柱となる中単元として位置付けた。また、その後に行う生活科の「がっこう だいすき」における学校探検の学習を核として、そこで発見した事柄を各教科等と関連させて、学習を展開できるようにした。

(3) 大単元から各教科に分化していく編成とする

最初は、大きな変化に対する緊張と不安の中で児童一人一人が小学校生活に順調に適応し、楽しい学校生活が送れるよう、1日当たりの学習時間数を少なくするとともに、大単元から徐々に各教科等に分化していくような編成とした。

大まかには、以下の順に学校生活や学習が広がるように編成した。



(4) 幼保小接続事項の内容を盛り込んだ編成とする

幼稚園や保育所等での学びが、小学校での学びにスムーズに接続できるよう、幼稚園や保育所等における指導方法や成果を盛り込んだ編成とした。スタートカリキュラムの本文中については、その該当箇所を「幼保小」で示した。

(5) 学びや活動に必要感・必然性のある編成とする

学校において必要なこと(学校生活上の基礎と基本)を児童が重要であるとする授業が展開できるように、必要感・必然性のある学びや活動となるように編成した。

5 スタートカリキュラム「どきどき わくわく 1ねんせい」の編成上の配慮事項

(1) 編成日数および時間計上

一般的に小学校入学後の数ヶ月(概ね1年生の4月から5月)をスタート期(入学期/入門期)という。知多地方教育計画案においては、スタート期(入学期/入門期)を主に4月から5月初旬と捉え、該当期間を便宜上4週間(20日間)、授業時間数を64時間とした。1時間の単位時間(分)は、学校裁量とする。

第1週…各日3時間×5日	第2週…各日3時間×5日
第3週…各日3時間×5日	第4週…3時間×1日 4時間×4日

また、ここでは、合科的・関連的な指導ができるようなカリキュラムを編成しているため、各教科・領域の時間数の計算は、4週間実施後まとめて行うようにする。(パッケージ方式)「どきどき わくわく 1ねんせい」の全てを実施した場合、下記の時間数を計上することができる。

生活	国語	書写	算数	音楽	体育	図工	道徳	特別活動			合計
								学活	児童会活動	学校行事	
13	12	2	7	4	5	4	3	8	1	5	64

ただし、学校行事は、当該校の計画によるのでこの限りではない。各学校において、弾力的な運用を図りたい。

(2) 各教科等のねらい

スタート期（入学期／入門期）における各教科等のねらいを次のように定め、編成に当たった。

生活……	学校の施設の様子及び、学校を支えている人々や友達のことが分かり、楽しく安心して遊びや生活をするができる。
国語……	学校生活の言葉や適切な声量を知り、本や文字、言葉に親しむことができる。
書写……	鉛筆の適切な持ち方、姿勢、筆圧で文字を正しく書こうとする。
算数……	体験的な活動を通して数の感覚を豊かにして、物の個数を数えることができる。
音楽……	音楽に合わせて体を動かしながら、楽しく歌ったり聴いたりすることができる。
体育……	固定遊具で遊んだり、簡単なゲームで遊んだりして、体を動かすことの楽しさを感じるができる。
図画工作	クレヨンを用いて、自分の大好きなものや伝えたい出来事などを表現することができる。
道徳……	進んで気持ちのよい挨拶をしたり、きまりを守ったりしようとする。
学級活動	学級の友達と仲良くして、学校生活に慣れ、学校生活を楽しもうとする。

6 スタートカリキュラム「どきどき わくわく 1ねんせい」の実施上の配慮事項

(1) 児童の実態に柔軟に応じた取組とすること

スタートカリキュラムは、児童が学校生活に適應できるようにつくられたカリキュラムであるが、目の前の児童の実態に学校が柔軟に対応して指導に当たるようにもしたい。

(2) 学校全体の取組とすること

スタートカリキュラムは、小・中学校9年間の義務教育の入り口を支える大切なカリキュラムである。他の組や学年との合同授業や交流授業も行う場合も想定されることから、意義について学校全体の取組として共有するようにしたい。

(3) 保護者への適切な説明を行うこと

スタートカリキュラムをスムーズに実施するには、家庭の協力が欠かせない。スタートカリキュラムのねらいや学習形態を、おたより等を通して家庭に説明し、理解を得ることが望ましい。この場合は、生活科の教科書口絵P.1の「保護者の皆様へ」の活用を図りたい。

(4) 授業時間や学習空間などの環境構成、人間関係づくりについて工夫すること

授業時間を細かく15分、30分などと区切るなど、児童の実態に合わせて、授業時間を弾力的に工夫したい。

また、幼稚園や保育園での生活環境を取り入れたり、他の学級や学年との交流授業を設定したりするなど、児童の発達に応じた環境づくりや人間関係づくりにも配慮したい。

(5) 体験的な活動を取り入れ、学校生活への適應と意欲化を図ること

活動しながら考えたり、考えながら活動したりして、その中から生活に必要な習慣や技能を身に付けたり、知識を習得したりできるように、日常生活に基づいた具体的な活動や体験を重視した学習を行い、学校生活への適應と意欲化を図るよう、指導に当たりたい。

(6) 言語生活が適切に行われるようにすること

児童が日常生活における言語の役割や機能などについて意識や関心をもち、正しい国語を相手意識をもって用いることができるように、教師自身がより一層言語に対して意識と関心をもち指導に当たりたい。

7 「どきどき わくわく 1ねんせい」における各教科等の学習内容と時間計上（計64時間）及び生活科との関連

各教科等	学習内容（単元名・教材名・学習分野）	時間	生活科との関連		
生活 13	すたあと ぶっく	がっこうの せいかつ・はじめまして たのしい がくしゅう たのしい いちにち	1 (生活上の自立) 1 (学習上の自立) 1 (精神的な自立)		
	がっこう だいすき	みんなで がっこうを あるこう こうていを あるいて みよう ともだちと がっこうを たんけん しよう がっこうに いる ひとと なかよく ならう こうていを たんけん しよう	2 (教師の引率の探検1) ア 2 (教師の引率の探検2) イ 2 (グループの探検1) ウ 2 (グループの探検2) エ 2 (グループの探検3) オ		
	国 語 12	さあ はじめよう	あさ こえの おおきさ、どうするの なんて いおうかな どんな おはなしかな どうぞ よろしく うたに あわせて あいうえお ことばを つくろう	1 (学習上の自立) 1 (生活上の自立) (学習上の自立) ウエオ 2 (生活上の自立) (学習上の自立) ウエオ 2 (学習上の自立) ア 2 (生活上の自立) (学習上の自立) 2 (学習上の自立) 2 (学習上の自立)	
		書き 2	はじめの がくしゅう	がっこうの もじたんけん じを かく しせい／えんぴつの もちか た／たのしく かこう	1 (学習上の自立) ウエオ 1 (学習上の自立)
		算 7	かずと すうじ	オリエンテーション 5までの かず	3 (学習上の自立) 4 (学習上の自立)
音 楽 4		あつまれ！おんがく なかま おんがくに あわせて オリエンテーション	さんぼ／ことりのうた／ちゅうりっぷ／や ぎさんゆうびん／ちょうちょう／おつかい ありさん／こいのぼり／めだかのがっこう ／かえるのがっしょう／ばすごっこ／いぬ のおまわりさん 等 かもつれっしや／サンダーバード 等	2 (学習上の自立) イ 2 (学習上の自立)	
体 育 5	器械・器具を使つての運動遊び（固定施設）		1 (生活上の自立) 1 (学習上の自立) 1 (学習上の自立) (精神的な自立)		
	ゲーム（鬼遊び）		イ 2 (学習上の自立) (精神的な自立)		
	体づくり運動（体ほぐし）		ウ 1 (学習上の自立) ア		
道 4	おきにいりを かこう ともだち いっぱい		2 (学習上の自立) イウエオ 2 (学習上の自立)		
徳 3	きそく 正しく 気もちの よい 毎日を		1 (生活上の自立) (精神的な自立)		
	気もちの よい ふるまいを やくそくや きまりを まもつて		1 (生活上の自立) 1 (精神的な自立)		
学級活動 8	にゅうがくしきに さんかしよう 入学式後 ぼくも わたしも 1ねんせい	机・ロッカーの使い方、朝の用意／トイレ の使い方／帰りの支度／下校の仕方／学習 の準備／チャイムと放送／靴箱、手洗い場 の使い方／雨の日の用意・過ごし方／朝の 会・帰りの会／雨の日の下校	2 (生活上の自立) 3 (生活上の自立) (学習上の自立) (精神的な自立) ア		
	おいしい きゅうしょく そうじを はじめよう がっきゅうの かかりを きめよう		1 (精神的な自立) 1 (精神的な自立) 1 (精神的な自立)		
健康 1	1ねんせいを むかえるかいに さんかしよう		1 (生活上の自立)		
学校行事 5	にゅうがくしきに さんかしよう 入学式		1		
	しぎょうしきに さんかしよう 始業式		1		
	とうげこうの しかたを おぼえよう 通学団会		1 (精神的な自立)		
	ほけんしつに いって しんたいそくていを しよう 身体測定 けんこうしんだんを うけよう 健康診断		1 1		